

# 製品安全データシート

文書 ID: SD-KMD080905J

作成日: 2008 年 8 月 28 日

改訂日: 2008 年 9 月 5 日

## 1. 製品及び会社情報

製品名:	MDA 測定キット
製品コード:	KMD-008W
構成試薬:	BHT reagent TBA reagent Acid reagent Assay buffer TMOP Standards
会社名(輸入発売元)	日研ザイル株式会社
住所:	静岡県袋井市春岡 710-1
担当部門:	日本老化制御研究所 キット試薬課
電話番号:	0538-49-0125
FAX 番号:	0538-49-1267
会社名(製造元):	Northwest Life Science Specialties, LLC, 16420 S.E. McGillivray, Suite 103, PBM 106, Vancouver, USA

## 2. 危険有害性の要約

成分(危険有害性物質):	構成試薬「BHT reagent」に含有 メタノール (95%) 2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール (5%) 構成試薬「Acid reagent」に含有 リン酸 (1M)
GHS分類	
物理化学的危険性	火薬類 分類対象外 可燃性・引火性ガス 分類対象外 可燃性・引火性エアゾール 分類対象外 支燃性・酸化性ガス 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類できない 可燃性固体 分類対象外 自己反応性化学品 分類対象外 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 分類対象外

	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分5
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	区分外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入:ミスト又は粉塵)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分1A
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	区分外
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性:	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分外

GHSラベル要素



危険有害性情報:

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
飲み込むと有害のおそれ(経口)  
重篤な眼の損傷  
重篤な薬傷・眼の損傷重篤な眼への刺激性  
水生生物に毒性あり  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
臓器の障害  
長期または反復暴露による臓器の障害

注意書き:

予防策

すべての安全注意および使用説明書を読み理解するまで取り扱わないこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
換気のよい区域でのみ使用すること。  
眼、皮膚または衣類に付けないこと。  
粉塵、ヒューム、ミストを吸入しないこと。

救急対応	<p>取扱後はよく眼や手を洗うこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p> <p><u>吸入した場合：</u></p> <p>被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、衣服、ネクタイ、ベルトなどをゆるめ、毛布などで保温して安静にする。呼吸困難が停止している場合は、人工呼吸を行う。心臓が停止した場合は心臓マッサージを行う。速やかに医師の診断を受ける。</p> <p><u>皮膚に付着した場合：</u></p> <p>出来るだけ速く被災者を洗浄の行える場所に移し、汚染された着衣や靴等を取り除く。適温のゆるやかな流水により、15分以上洗浄する。必要に応じて石鹼などを用いて十分に洗い落とす。その場で痛みなどの症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診察を受けること。</p> <p><u>目に入った場合：</u></p> <p>出来るだけ速く被災者を洗眼の行える場所に移す。眼瞼を指で開きながら、適温のゆるやかな流水により15分以上洗浄する。洗浄した水が被災していない側の目に入ったり、顔面に触れないよう注意する。速やかに医師の診断を受ける。</p> <p><u>飲み込んだ場合：</u></p> <p>水で口をすすぐ。速やかに医師の診断を受ける。</p> <p>吐かせる(BHT reagent)。</p> <p>多量の水を飲ませる。無理に吐かせない(Acid reagent)。</p>
貯蔵	<p>冷暗所にて施錠して保管すること。</p> <p>火気や熱源などの着火源から遠ざけること。</p> <p>可燃性物質、還元性物質、強酸化剤、強塩基、食品や飼料、混触危険物質から離して保管すること(BHT reagent)。</p> <p>防湿に留意する。食品や飼料、アゾ化合物、エポキシド、アルコール、アルデヒド、シアン化物、ケトン、フェノール、エステル、硫化物、有機ハロゲン化物から離して保管する(Acid reagent)。</p>
廃棄	<p>内容物や容器を廃棄する場合には、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。</p>

### 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別:	混合物
<u>構成試薬「BHT reagent」(2.5 mL)中に含まれる成分</u>	
化学名(危険有害物質):	メタノール
分子式:	CH <sub>3</sub> OH
分子量:	32.04
官報公示整理番号:	(2)-201
CAS No.	67-56-1

含有量: 95%

構成試薬「BHT reagent」(2.5 mL)中に含まれる成分

化学名: 2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール  
一般名: BUTYLATED HYDROXYTOLUENE (BHT)  
分子式:  $[(CH_3)_3C]_2C_6H_2(CH_3)OH$   
分子量: 220.34  
官報公示整理番号: (3)-540, (9)-1805(化審法・安衛法)  
CAS No. 128-37-0  
含有量: 5%

構成試薬「Acid reagent」(10 mL)中に含まれる成分

化学名(危険有害物質): リン酸  
分子式:  $H_3O_4P$   
示性式:  $H_3PO_4$   
分子量: 98.00  
官報公示整理番号: (1)-422  
CAS No. 7664-38-2  
含有量: 1M

---

#### 4. 応急措置

吸入した場合: 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、衣服、ネクタイ、ベルトなどをゆるめ、毛布などで保温して安静にする。呼吸困難が停止している場合は、人工呼吸を行う。心臓が停止した場合は心臓マッサージを行う。速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合: 出来るだけ速く被災者を洗淨の行える場所に移し、汚染された着衣や靴等を取り除く。適温のゆるやかな流水により、15分以上洗淨する。必要に応じて石鹼などを用いて十分に洗い落とす。その場で痛みなどの症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診察を受けること。

目に入った場合: 出来るだけ速く被災者を洗眼の行える場所に移す。眼瞼を指で開きながら、適温のゆるやかな流水により15分以上洗淨する。洗淨した水が被災していない側の目に入ったり、顔面に触れないよう注意する。速やかに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合: 水で口をすすぐ。速やかに医師の診断を受ける。  
吐かせる(BHT reagent)。  
多量の水を飲ませる。無理に吐かせない(Acid reagent)。

---

#### 5. 火災時の措置

消火剤: 粉末消火薬剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡、水噴霧。

使ってはならない消火剤:	情報なし。
特定の危険有害性:	炎は青白く見え難いので注意する。燃焼の際に有害な生成物(一酸化炭素、ホルムアルデヒドなど)、刺激性もしくは有毒なフュームやガスが発生する。
特定の消火方法:	火災場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。初期消火は燃焼源を断ち、粉末消火薬剤、二酸化炭素を用いて一挙に消火する。消火作業は、保護具を着用し、安全な距離と防御出来る位置から行う。火災が広がった場合は、多量の噴霧水、耐アルコール泡で消火する。
(周辺火災の場合)	周辺火災の場合は、速やかに移動可能な容器を安全な場所に移動する。移動不可能な場合は容器及び周囲の施設などに散水して冷却する。容器が火焰に包まれた場合は、爆発する恐れがあるので退避する。
消火を行う者の保護:	消火作業の際には必ず呼吸用保護具(給気式呼吸用保護具など)を用い、できるだけ風上から行き、蒸気、燃焼ガスの吸入を避ける。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項:	漏出場所の周辺にロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には、適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりガスを吸入しないようにする。処理に際しては、自給式呼吸器付化学保護衣を用いる。風上から作業をし、風下の人を退避させる。屋内の場合は、空気の流通を良くして蒸気の吸入を避ける。
環境に対する注意事項:	流出した製品の公共用水域等への流出を防止する。大量の水で希釈する場合、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないよう注意する。
回収、中和:	盛土で囲って流出を防止し、液の表面を泡(消火剤)で覆った後、密閉出来る空容器に回収する。
二次災害の防止策:	付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火器材を準備する。その区域での喫煙、裸火、その他の発火源(電熱器、開閉器の作動等)の使用を禁止する。蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。 アゾ化合物、エポキシドの影響下で激しく重合する(Acid reagent)。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

構成試薬のうち、「BHT reagent」について記載する。

取扱い: 技術的対策	使用容器、装置等の静電気対策を行い、作業服、安全靴等は、導電性のものを用いる。取扱い場所を火気厳禁、使用する電気設備は防爆構造とする。充填、取り出し、取扱い時に圧縮空気を使用してはならない。容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、あるいは引きずるような取扱いをしない。加熱、乾燥などには、スチームによる間接加熱を用いる。
注意事項	液の漏洩や蒸気の発散を極力防止する。風通しのよい場所で取扱う。屋内の取扱いは、必要に応じ全体換気装置、蒸気の発生する場所には

		局所排気装置を設ける。接触・吸入の恐れがあるときは保護具を着用する。作業中は飲食、喫煙をしない。
	安全取扱い注意事項	高温物、スパーク、火気を避け、酸化性物質との接触を避ける。適切な保護具を着用し、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないようにする。取扱い後は、手、顔などを良く洗う。
保管:	適切な保管条件	容器は、換気のない決められた冷暗所に密栓して保管し、着火源、高温物等を近づけない。保管場所の床は不浸透性のものとし、地下への浸透、外部への流出を防止する。酸化剤、強酸、強塩基物質等と同一の場所に置かない。
	技術的対策	火気や熱源などの着火源から遠ざける。盗難防止のため施錠保管する。ステンレススチールの容器に貯蔵する。耐腐食性のコンクリートの床のある場所に貯蔵すること。
	混接禁止物質	酸化剤(過塩素酸、過マンガン酸、過酸化水素等)。
	安全な容器包装材料	消防法等の関連法規に従う。密閉できる耐油性容器を使用する。鉛、アルミニウムを腐食するので器材の材質として使用しない。

構成試薬のうち、「Acid reagent」について記載する。

取扱い:	技術的対策	この物質中に水を注いではならない。溶解または希釈する時は必ず水の中にこの物質を徐々に加えること。アゾ化合物、エポキシドの影響下で激しく重合する。多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。
	注意事項	作業中は飲食、喫煙をしない。
	安全取扱い注意事項	取扱いは、換気のない場所で行い、粉塵が飛散しないよう注意する。保護具や器具類などは耐食性のものを用いる。周辺での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。静電気対策を行い、作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。取扱い機器や設備などは防爆型を用いる。適切な保護具を着用し、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないようにする。取扱い後は、手、顔などを良く洗う。
保管:	適切な保管条件	密栓した後、乾燥した冷暗所に保管する。火気や熱源などの着火源から遠ざける。防湿に留意する。食品や飼料、アゾ化合物、エポキシド、アルコール、アルデヒド、シアン化物、ケトン、フェノール、エステル、硫化物、有機ハロゲン化物から離して保管する。
	技術的対策	情報なし。
	混接禁止物質	アゾ化合物、エポキシド、アルコール、アルデヒド、シアン化物、ケトン、フェノール、エステル、硫化物、有機ハロゲン化物
	安全な容器包装材料	船舶安全法、航空法などの法令に定めるところに従う。国連容器包装等級Ⅲ。

**8. 暴露防止及び保護措置**

設備対策: 屋内作業場では、発生源の密閉、局所排気装置又は全体排気装置を

設置する。取扱い場所の近くに、洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明示する。安全管理のため状況に応じて、ガス検知器等を整備する。

- ・測定器;可燃性ガス・有毒ガス測定器、可燃性ガス警報器、検知器等
- ・検知管;メタノール用

構成試薬のうち、「BHT reagent」の主成分(95%)であるメタノールで、以下の情報が報告されている。

管理濃度:	200ppm
許容濃度:	日本産業衛生学会(2001年勧告値) 200ppm (260mg/m <sup>3</sup> )
	ACGIH(1976年勧告値) TWA(時間加重平均) 200ppm
	STEL(短時間暴露限界値) 250ppm

構成試薬のうち、「Acid reagent」に含まれるリン酸について、以下の情報が報告されている。

管理濃度:	設定されていない。
許容濃度:	ACGIH(2002年版) 時間加重平均(TWA) 1 mg/m <sup>3</sup>
	ACGIH(2002年版)短時間暴露限界(STEL) 3 mg/m <sup>3</sup>
	OSHA PEL 時間加重平均(TWA) 1 mg/m <sup>3</sup>
	日本産業衛生学会(2000年版)勧告値 1 mg/m <sup>3</sup>

保護具:	呼吸器用の保護具	防毒マスク(有機ガス用)、濃度の高い場合は、送気マスク又は空気呼吸器
	手の保護具	耐油性(不浸透性)保護手袋
	目の保護具	保護眼鏡、ゴーグル又は防災面。
	皮膚及び身体の保護具	長靴、耐油性(不浸透性・静電気防止対策用)前掛け、防護服(静電気防止対策用)等
適切な衛生対策:		保護具は使用後清浄にして清潔に保ち、マスクの吸収缶は、破過時間を考慮して定期的に交換する。 作業中は飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

構成試薬のうち、「BHT reagent」の主成分(95%)であるメタノールについて記載する。

形状:	液体
色:	無色透明
臭い:	芳香臭
pH:	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	65°C
引火点	12 °C
燃焼または爆発範囲の上限、下限	上限 36 %、下限 6.0 %
蒸気圧	12.3 KPa(20°C)
蒸気密度	1.1(空気=1)
比重	0.7914(20°C)

溶解度	溶媒に対する溶解性	水に易溶。 エタノール、エーテル、ベンゼン等殆どの有機溶剤に可溶。
オクタノール/水分配係数	LogPow	= -0.82 / -0.66
自然発火温度	データなし	
分解温度	データなし	

構成試薬のうち、「Acid reagent」について記載する。

形状:	液体	
色:	無色透明	
臭い:	データなし	
pH:	酸性	
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし	
引火点	データなし	
燃焼または爆発範囲の上限、下限	データなし	
蒸気圧	データなし	
蒸気密度	データなし	
比重	データなし	
溶解度	溶媒に対する溶解性	水に易溶。
オクタノール/水分配係数	データなし	
自然発火温度	データなし	
分解温度	データなし	

## 10. 安定性及び反応性

構成試薬のうち、「BHT reagent」の主成分(95%)であるメタノールについて記載する。

安定性	通常の条件においては、安定である。
危険有害反応可能性	酸化剤(過塩素酸、過マンガン酸等)と激しく反応し、火災、爆発の危険をもたらす。過酸化水素と混触したものは、衝撃により爆発する。
避けるべき条件	加熱により引火又は爆発することがある。蒸気は空気より重く低い場所に滞留し、空気との爆発性混合ガスを形成することがある。
混触危険物質	鉛、アルミニウムを侵す。酸化剤(過塩素酸、過マンガン酸、過酸化水素)等との接触に注意する。
危険有害な分解生成物	加熱分解により一酸化炭素、ホルムアルデヒドを生じる。

構成試薬のうち、「Acid reagent」に含まれるリン酸について記載する。

安定性	アゾ化合物、エポキシドの影響下で激しく重合する。吸湿性がある。
危険有害反応可能性	中程度の酸性である。塩基と激しく反応する。
混触危険物質	多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。アルコール、アルデヒド、シアン化物、ケトン、フェノール、エステル、硫化物、有機ハロゲン化物と接触すると分解し、有毒なフュームを生じる。
危険有害な分解生成物	燃焼すると、有毒なフューム(リン酸化物)を生成する。

## 11. 有害性情報

構成試薬のうち、「BHT reagent」の主成分(95%)であるメタノールについて以下の情報が報告されている。

急性毒性:	吸入又は飲み込みにより中枢神経系に影響を与え、頭痛、吐気、嘔吐、めまい、意識喪失、死亡することがある。視神経が侵され失明することがある。これらの影響は遅れて現れることがあり、医学的な観察が必要である。飲み込んだ場合、10～25mL で失明。
	経口 ヒト LDLo 143mg/kg 視神経障害、呼吸困難、嘔吐
	吸入 ヒト TClO 300ppm
	経口 ラット LD <sub>50</sub> 5,600mg/kg 脂肪肝、腎臓の組織学的異常等
	経口毒性 マウス LD <sub>50</sub> 7,300mg/kg
	経口毒性 サル LD <sub>50</sub> 7g/kg
	吸入毒性 ラット LC <sub>50</sub> 64,000ppm/4 時間
	経皮毒性 ウサギ LD <sub>50</sub> 15,800mg/kg
皮膚腐食性・刺激性:	液体の接触により、眼、粘膜、皮膚を刺激し、発赤する。
	皮膚 ウサギ 20mg/24 時間 中等度の刺激性
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	液体の接触により、眼、粘膜、皮膚を刺激し、発赤する。視神経に障害を起し失明する。
	眼 ウサギ 40mg/24 時間 中等度の刺激性
	眼 ウサギ 100mg/24 時間 中等度の刺激性
呼吸器感受性または皮膚感受性:	情報なし。
生殖細胞変異原性:	染色体異常 マウス [+] 1g/kg(経口)
	哺乳類培養細胞を用いる形質転換試験 陰性
	哺乳類細胞を用いる姉妹染色分体交換 陰性情報なし。
発がん性:	情報なし。
生殖毒性:	経口 ラット TDLo 35.3g/kg 1～15 日
	雌受精率の低下、着床前及び着床後の死亡率増加。
	吸入 ラット TClO 2.0%/7 時間 1～22 日
	筋骨格系、心臓血管系、泌尿生殖器系異常。
特定標的臓器・全身毒性・単回暴露:	吸入又は飲み込みにより中枢神経系に影響を与え、頭痛、吐気、嘔吐、めまい、意識喪失、死亡することがある。視神経が侵され失明することがある。これらの影響は遅れて現れることがあり、医学的な観察が必要である。飲み込んだ場合、10～25mL で失明。
特定標的臓器・全身毒性・反復暴露:	反復又は長期間の暴露により、中枢神経系に影響を与え、持続的あるいは反復性の頭痛や視力障害を生じ、又皮膚接触により皮膚炎を生じることがある。
吸引性呼吸器有害性:	情報なし。

構成試薬のうち、「BHT reagent」に含まれるBHTについて以下の情報が報告されている。

急性毒性:	経口 マウス LD <sub>50</sub> 50mg/kg
-------	---------------------------------

	経口 ラット LD <sub>50</sub>	890mg/kg
	経口 マウス LD <sub>50</sub>	1040mg/kg
	経口 マウス LC <sub>50</sub>	650mg/kg
皮膚腐食性・刺激性:	ヒト及びウサギの皮膚に対して軽度または中程度の刺激性を示した。	
	皮膚刺激性	ウサギ 500mg/48H 中等度の刺激性
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	ウサギの眼に対して中程度の刺激性を示した。	
	眼刺激性 ウサギ	100mg/24H 中等度の刺激性
呼吸器感作性または皮膚感作性:	情報なし。	
生殖細胞変異原性:	マウスのリンパ球を用いた変異原性試験などにより、本製品の変異原性を示唆するデータが報告されている。	
	労働省の行った微生物を用いた変異原性試験(昭和 55~58 年度分)の結果、変異原性が認められなかった物質の一つに挙げられている。	
発がん性:	IARC では、本製品の発がん性を「ヒトに対する発がん性については分類できない」と評価し、グループ 3 に分類している。	
生殖毒性:	情報なし。	
特定標的臓器・全身毒性・単回暴露:	情報なし。	
特定標的臓器・全身毒性・反復暴露:	情報なし。	
吸引性呼吸器有害性:	情報なし。	

構成試薬のうち、「Acid reagent」に含まれるリン酸について以下の情報が報告されている。

急性毒性:	吸入すると灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛の症状を引き起こし、経口摂取すると腹痛、灼熱感、ショックまたは虚脱の症状を引き起こす。		
	経口	ラット	LD <sub>50</sub> 1.25g/kg
	経口	ラット	LD <sub>50</sub> 1,530 mg/kg
	経口	マウス	LD <sub>50</sub> 1.25g/kg
	吸入	ラット	LC <sub>50</sub> >850 mg/m <sup>3</sup> 1時間
	吸入	ラット	LC <sub>50</sub> 25.5g/m <sup>3</sup>
	吸入	マウス	LC <sub>50</sub> 25.5g/m <sup>3</sup>
	経皮	ウサギ	LD <sub>50</sub> 2,740 mg/kg
皮膚腐食性・刺激性:	皮膚に触れると発赤、痛み、皮膚熱傷、水泡の症状を引き起こす。		
	皮膚	ウサギ	595 mg 24時間 重度の刺激性
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	眼に入ると痛み、発赤、重度の熱傷の症状を引き起こす。		
	眼	ウサギ	119 mg 重度の刺激性
呼吸器感作性または皮膚感作性:	情報なし。		
生殖細胞変異原性:	情報なし。		
生殖毒性:	情報なし。		
特定標的臓器・全身毒性・単回暴露:	情報なし。		
特定標的臓器・全身毒性・反復暴露:	情報なし。		
吸引性呼吸器有害性:	情報なし。		

## 12. 環境影響情報

生体毒性:	魚毒性 ヒメダカ $LC_{50}$ 5.0 mg/L/48h (BHT)
残留性・分解性:	良分解性である。(メタノール)
生体蓄積性:	中程度(難分解性)。(BHT)
土壤中の移動性:	物理化学的性状からみて、大気、水系、土壤環境に移動し得る。

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:	適切な保護具を着用する。一酸化炭素の発生に注意しながら、スクラパーを備えた焼却炉で少量ずつ完全に焼却する。処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。
汚染容器及び包装:	空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

---

## 14. 輸送上の注意

構成試薬のうち、「BHT reagent」の主成分(95%)であるメタノールについて記載する。

国連番号:	1230
品名:	メタノール
国連分類:	クラス 3. 2 (等級 2) 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車両等によって運搬する場合、運搬人はイエローカードを携帯すること。
海洋汚染物質:	該当

構成試薬のうち、「Acid reagent」に含まれるリン酸について記載する。

国連番号:	1805
品名:	リン酸
国連分類:	クラス8 腐食性物質 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車両等によって運搬する場合、運搬人はイエローカードを携帯すること。
海洋汚染物質:	該当

---

## 15. 適用法令

構成試薬のうち、「BHT reagent」に含まれるメタノールについて記載する。

消防法	危険物第 4 類アルコール類(指定数量 400L)
毒物及び劇物取締法	法別表第二 八十三 劇物(原体)
化学物質管理促進法	第一種指定化学物質
労働安全衛生法	危険物;(引火性のもの) 有機則 第 2 種有機溶剤 名称等を表示すべき有害物

	通知対象物(施行令別表第9 第557号)
船舶安全法	危規則 引火性液体類
海洋汚染防止法	第1 有害液体物質(D類)
航空法	引火性液体
港則法	危険物(引火性液体類)
大気汚染防止法	特定物質

構成試薬のうち、「BHT reagent」に含まれるBHTについて記載する。

安衛法	通知対象物(施行令別表第9 第261号)
消防法	指定可燃物(可燃性固体類)(指定数量:3000 kg)

構成試薬のうち、「Acid reagent」に含まれるリン酸について記載する。

労働安全衛生法	施行令第18条の2 通知対象物(施行令別表第9 第615号)
船舶安全法	危規則 告示別表第3 (腐食性物質)
航空法	告示 別表第1 腐食性物質 分類番号8
海洋汚染防止法	施行令別表第1 有害液体物質 (D類)

## 16. その他の情報

本データシートの記載内容については、現時点で入手できる資料等に基づいて作成したのですが、全ての情報を網羅しているものではありません。記載されている値は安全な取扱いを確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。取扱いの際には十分注意してください。また、新たな情報を入手した場合に、記載内容が追加または訂正される場合があります。